

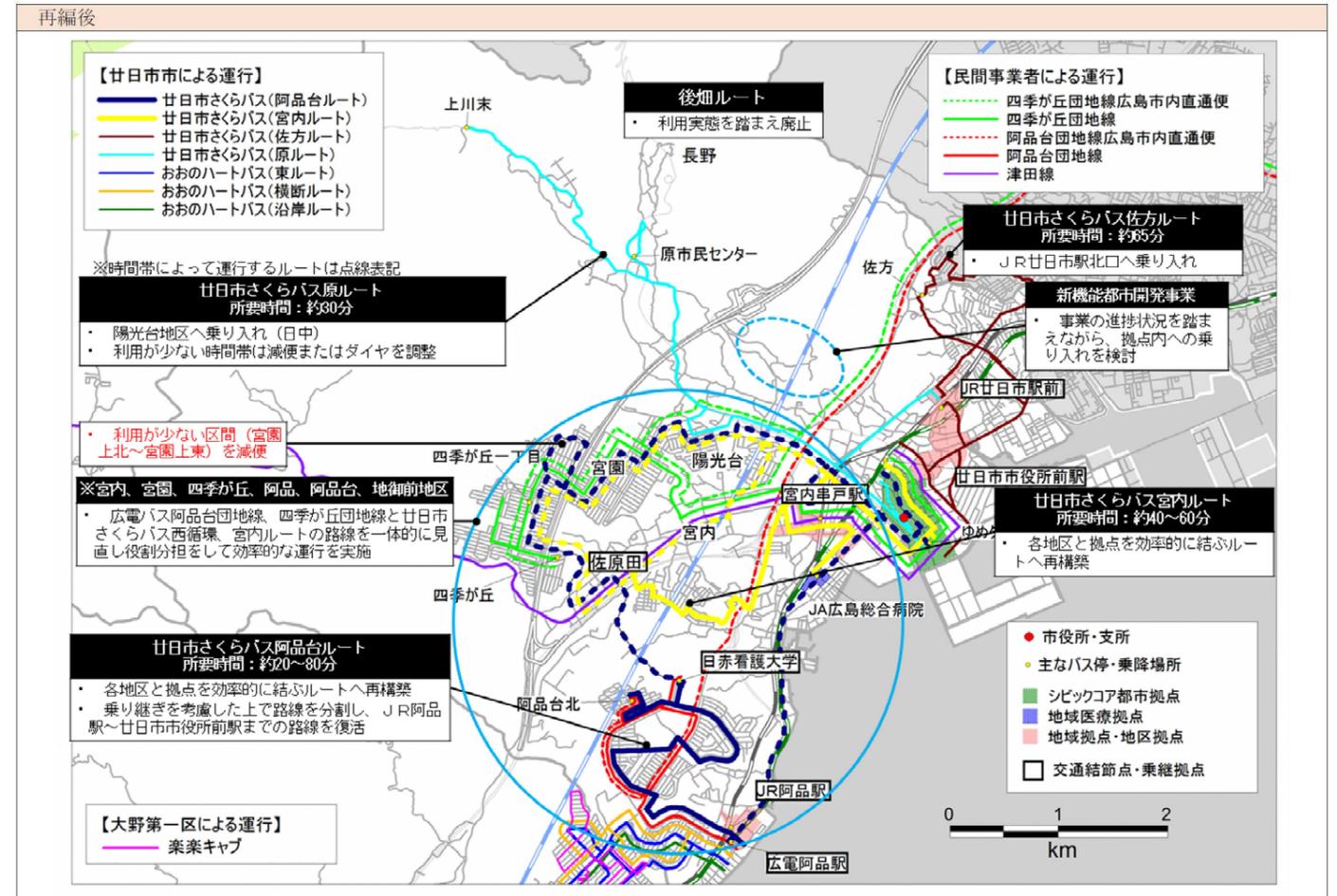
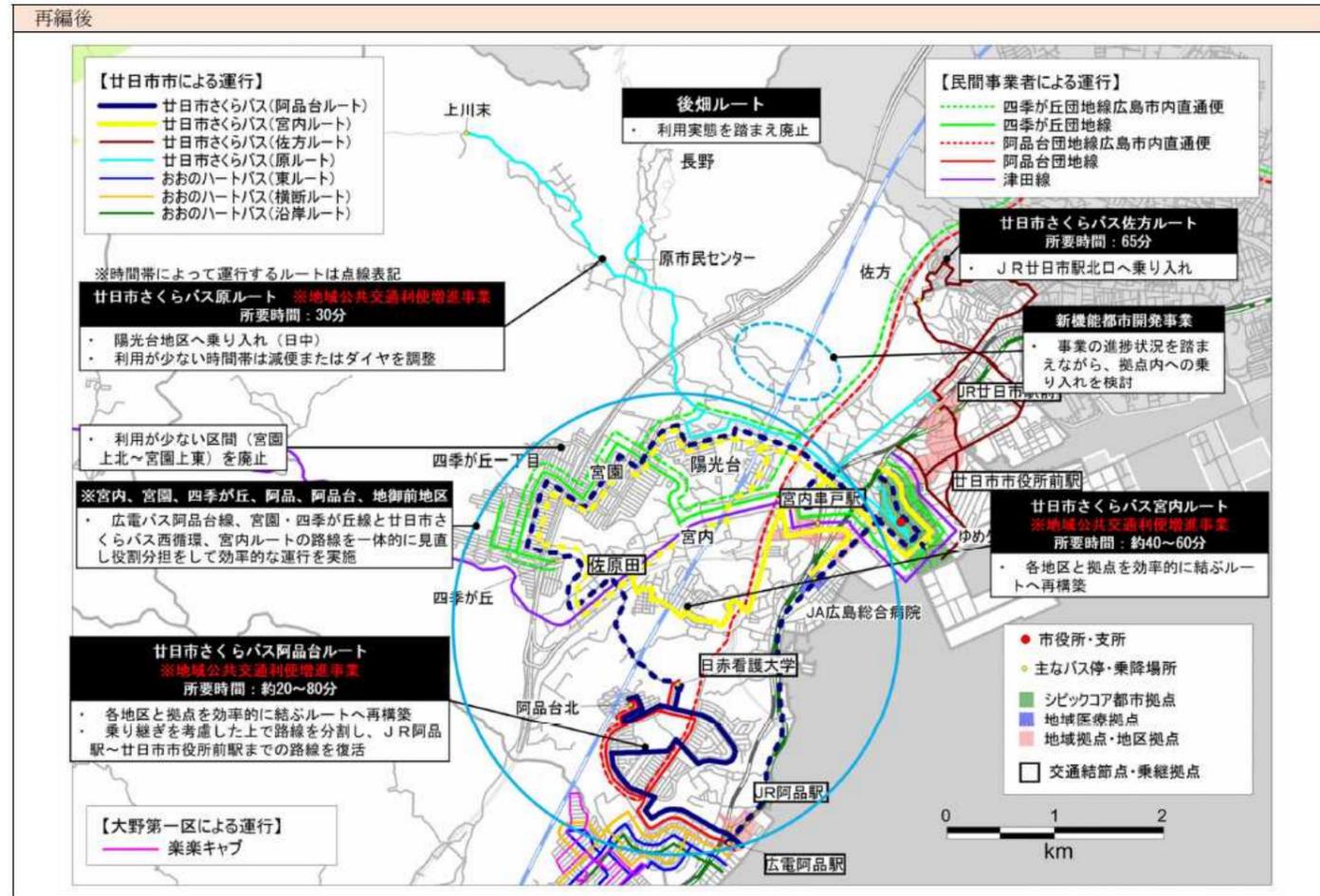
廿日市地域公共交通計画について

(変更前)

(変更後)

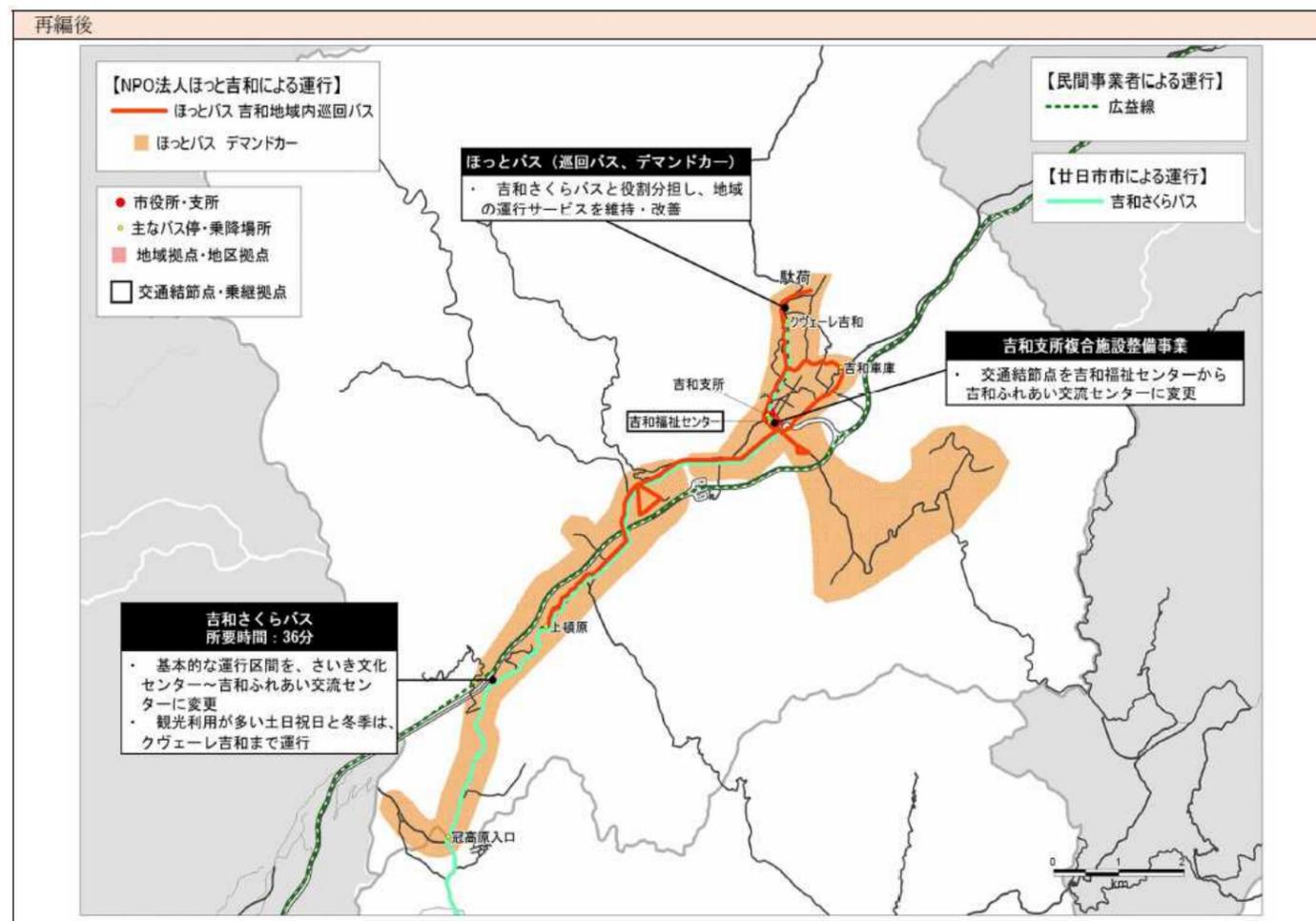
(1) 廿日市地域の地域公共交通ネットワーク

(1) 廿日市地域の地域公共交通ネットワーク



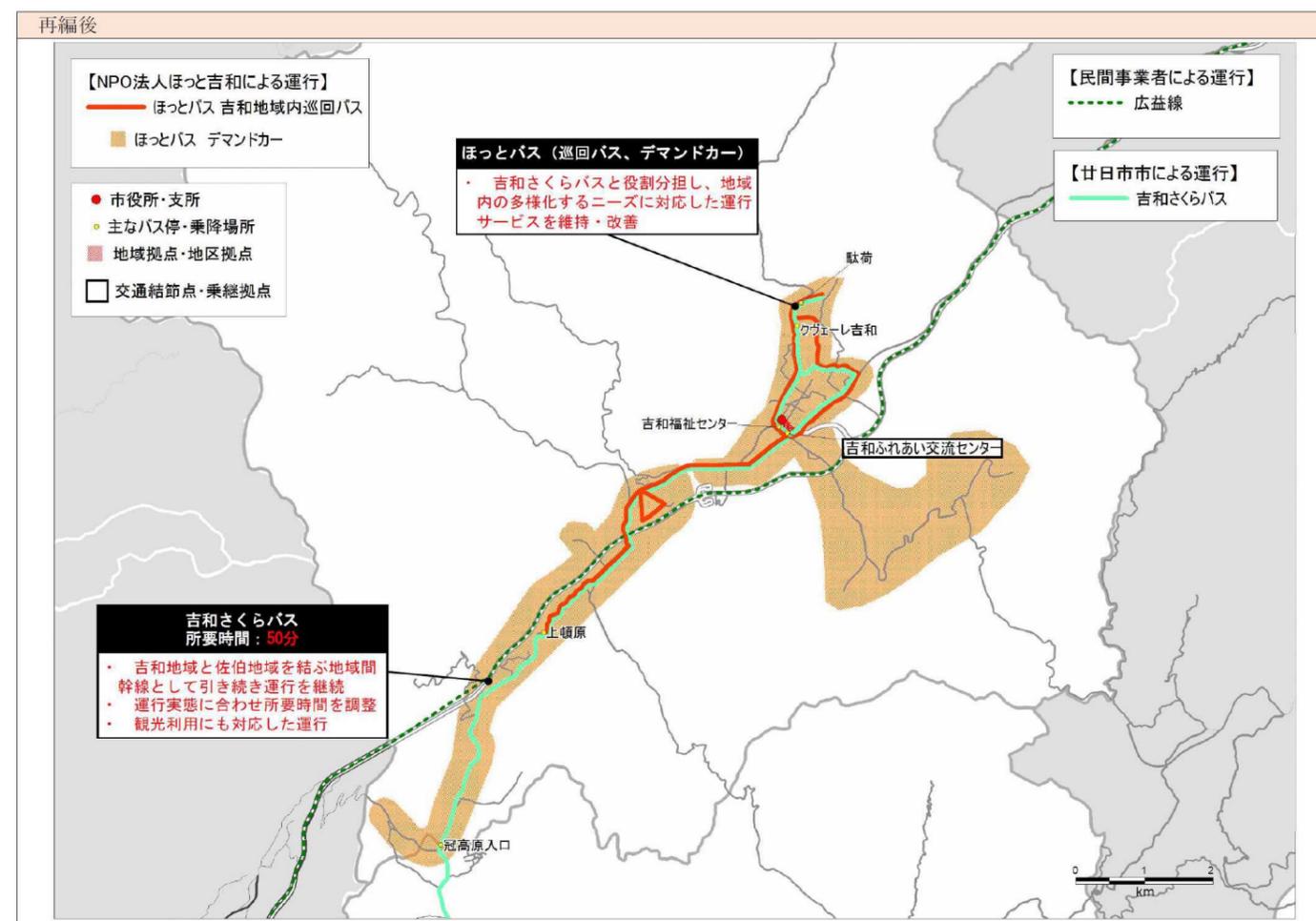
(変更前)

(4) 吉和地域の地域公共交通ネットワーク



(変更後)

(4) 吉和地域の地域公共交通ネットワーク



(変更前)

基本方針	目標	関連する SDGs
効果的な地域公共交通ネットワークの構築	拠点と拠点、拠点と居住地を結ぶネットワークを構築します	 

施策	地域拠点を軸とした地域公共交通ネットワークの構築 【吉和地域】
-----------	---------------------------------

現状

- 市自主運行バスは、吉和地域と佐伯地域間を結ぶ吉和さくらバスを運行しています。
- NPO法人ほっと吉和が、自家用有償旅客運送として「ほっとバス（地域内巡回バスとデマンドカー）」を運行しています。
- 石見交通(株)が、広島市と益田市を結ぶ広益線を運行し、吉和サービスエリアに乗り入れています。

1 吉和さくらバスの利用状況

- 吉和さくらバスは、吉和地域拠点から、広電バス津田線が乗り入れている佐伯地域拠点間を運行し、吉和地域と沿岸部を結ぶ地域間幹線として重要な役割を担っています。また、冬季は、クヴェーレ吉和を訪れるスキー客の利用が多くなっています。
- 居住者がいない区間が長く、また、利用者が限られているため、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統）を活用して運行しています。
- 便別の平均利用者数をみると、平日の18時55分以降の便は2.0人/便となっており、乗り合って利用される日が少ないことが推測されます。また、休日は、朝・夕の利用が多く、9時30分から14時00分の間の利用は少ない状況です。

2 ほっとバスの利用状況

- ほっとバスは、地域内の多様化する移動ニーズに対応することを目的として運行されていますが、上頓原～駄荷～吉和福祉センター間で吉和さくらバスと重複運行しています。
- 顔なじみの人が運行していることで気軽に利用できることもあって、市が吉和デマンドバスを運行していたときよりも利用者が増えています。

課題

- 吉和さくらバスとほっとバスが共存していくために、吉和さくらバスの利用が少ない吉和福祉センター以北の区間は、ほっとバスと役割分担することが必要です。
- 観光利用が多い季節や土日・祝日は、観光交流施設への吉和さくらバスの乗り入れを検討する必要があります。
- 利用が少ない時間の利用促進や、新たなサービスの提供による生産性の向上を図る必要があります。

(変更後)

基本方針	目標	関連する SDGs
効果的な地域公共交通ネットワークの構築	拠点と拠点、拠点と居住地を結ぶネットワークを構築します	 

施策	地域拠点を軸とした地域公共交通ネットワークの構築 【吉和地域】
-----------	---------------------------------

現状

- 市自主運行バスは、吉和地域と佐伯地域間を結ぶ吉和さくらバスを運行しています。
- NPO法人ほっと吉和が、自家用有償旅客運送として「ほっとバス（地域内巡回バスとデマンドカー）」を運行しています。
- 石見交通(株)が、広島市と益田市を結ぶ広益線を運行し、吉和サービスエリアに乗り入れています。

1 吉和さくらバスの利用状況

- 吉和さくらバスは、吉和地域拠点から、広電バス津田線が乗り入れている佐伯地域拠点間を運行し、吉和地域と沿岸部を結ぶ地域間幹線として重要な役割を担っています。また、冬季は、クヴェーレ吉和を訪れるスキー客の利用が多くなっています。
- 居住者がいない区間が長く、また、利用者が限られているため、地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域内フィーダー系統）を活用して運行しています。
- 便別の平均利用者数をみると、平日の18時55分以降の便は2.0人/便となっており、乗り合って利用される日が少ないことが推測されます。また、休日は、朝・夕の利用が多く、9時30分から14時00分の間の利用は少ない状況です。

2 ほっとバスの利用状況

- ほっとバスは、地域内の多様化する移動ニーズに対応することを目的として運行されていますが、上頓原～駄荷～吉和福祉センター間で吉和さくらバスと重複運行しています。
- 顔なじみの人が運行していることで気軽に利用できることもあって、市が吉和デマンドバスを運行していたときよりも利用者が増えています。

課題

- 吉和さくらバスとほっとバスが役割分担することで、市民のニーズに合った移動手段を確保することが必要です。
- 観光利用に対応した運行ダイヤの調整が必要です。
- 吉和ふれあい交流センターの整備に伴い、交通結節点の変更が必要です。
- 吉和さくらバス運行ダイヤの所要時分が実態に合っていないため、安全に運行するために運行ダイヤの調整が必要です。
- 利用が少ない時間の利用促進や、新たなサービスの提供による生産性の向上を図る必要があります。

(変更前)

主な取組内容	
取組(案)	取組内容(案)
吉和地域の地域公共交通の再構築(吉和さくらバスの見直し)	<ul style="list-style-type: none">上頓原～駄荷～吉和福祉センター間の運行の効率化 利用が少ない吉和福祉センター以北の区間は、ほっとバスと役割分担し、あわせて乗継割引制度を導入することで運行の効率化と運賃負担の抑制を図ります。移動実態に合わせた運行 観光利用が多い土日・祝日と冬季は、クヴェーレ吉和まで運行することで、観光客の移動手段を確保します。
中山間部における貨客混載 ※施策：新たなサービスの導入に詳細を記載	<ul style="list-style-type: none">貨客混載の検討・実施 生産性の向上を図るため、吉和さくらバスの利用が少ない時間帯において、貨客混載等の新たなサービスの導入について検討します。

(変更後)

主な取組内容	
取組(案)	取組内容(案)
吉和地域の地域公共交通の再構築(吉和さくらバスの見直し)	<ul style="list-style-type: none">交通結節点の変更及び運行ダイヤの見直し 交通結節点を吉和福祉センターから吉和ふれあい交流センターに変更するとともに、運行実態に合った適切な所要時分に調整します。移動実態に合わせた運行 引き続きクヴェーレ吉和まで運行することで、観光客の移動手段を確保します。
中山間部における貨客混載 ※施策：新たなサービスの導入に詳細を記載	<ul style="list-style-type: none">貨客混載の検討・実施 生産性の向上を図るため、吉和さくらバスやほっとバスの利用が少ない時間帯において、貨客混載等の新たなサービスの導入について検討します。